



挑戦する心育む「愛情教育」



オールイングリッシュでスピーキング力を強化



幅広い知識と専門性を追究し「模擬裁判」を実施

伝統の課題研究

土曜日に行う特別授業「チャレンジングサタデー」は、学年ごとにグループワークを取り組む。個人で1年かけて課題研究に取り組む伝統的な活動もあり、普段の授業ではできない自由な学習により、問題解決能力などを養う。

学習意欲向上へ独自授業

中学校の新学習指導要領は2021年度から全面実施され、①知識・技能の習得②思考力・判断力・表現力の育成③学びに向かう力と人間性の涵養――の三つがポイントになる。駿台甲府中の中村圭世副校长は「新学習指導要領」で目指すこととは、基礎・基本を重視した学習を大切にしてきた本校

がこれまで取り組んできたことと同じです」と話す。駿中は小中高一貫のため学年が違うことで連携が生まれる。3年では、「模擬裁判」や「科学セミナー」「進路講演会」を行うなど、幅広い知識と専門性の探究を目指す期間としている。19年度に新校舎が完成し、駿台甲府高に隣接したことで、中高の連携はさらに強化された。

「授業が真ん中」を合言葉に、学ぶ楽しさや学習意欲を引き出す授業も、駿中の大きな特色だ。理科授業は実験を3年間で約100回重ね、自然科への探究心を養う。英語はネイティブ授業による少人数制授業や、ハイレベルなテキストの採用などで、授業や、ハイレベルな理数系、英語教育とともに力を入れている。「科学の甲子園ジュニア」や「日本ジュニア数学オリンピック」、「高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」など、知識や技能を競うコンテストに挑戦する生徒も多いという。

放課後には部活動にも力を入れ、週3日の限られた練習時間を作り出し、運動部・文化部とともに、優秀な成績を収めている。

新型コロナウイルスの影響で、本年度は中止となつたが、宿泊学習会「緑陰教室」、富士登山、希望者によるオーストラリア研修旅行など、仲間と過ごす貴重な体験の機会もある。

駿台甲府中学校



百人一首の暗唱に取り組み、仲間と対戦



豊富な授業時間で、多彩な授業が行われている

学校法人駿台甲府学園(甲府市塩部2丁目、田中雅浩理事長)は、駿台グループの共通理念「愛情教育」の下、小中高一貫教育を推進している。学力を向上させる高い指導力をはじめICT(情報通信技術)教育や独自のカリキュラム、多彩な活動を取り入れ、充実したスクールライフの実現に注力。これから時代に求められる力や、目標に向かって挑戦する精神を育んでいる。

駿台甲府小学校

基礎と体験軸に土台固め

小中高一貫教育の入り口となる駿台甲府小は、体験を重視しながら中高につながる基礎をつくることに力を注いでいる。小西静穂副校长は「望む進路を目指すには小学校での土台固めが大切です。たっぷりある学習時間の中で、一つ一つの事柄をゆっくり確実に理解するまで指導し、基本を

駿小の授業時間は1年生から6時間を確保。6年間では公立小より600時間以上多いという。その中で、低学年では「読み・書き・そろばん(計算)」を中心とした基礎学習を重視し、一人一人の学力に合わせた

指導を行っている。
教科担任制強み
高学年からは中学進学を見据えた学習に移行する。国語・算数・理科・社会の主要4教科は教科担任制を採用。一貫校のため教諭は小中高をまたぐ異動があり、中高で指導していた教諭がその経験を基に、小学

指導を行っている。

豊富な授業時間に組み込まれている多彩な活動も駿一小の魅力だ。百人一首や囲碁、将棋、バイオリン、伝統行事を学ぶ授業や、学校農園「つくし村」での農作業もあり、さまざまな体験を通じ、自然や文化についても習得できる。

1校時が始まる前の25分で読書やミニ問題などに取り組む「朝チャレ」、4年生から希望制で行う放課後の課外学習など、授業時間以外も学力向上につながるスケジュールが組まれている。小西副校长は「本校では子どもたちがそれぞれの歩みで目標にチャレンジできることも充実している。

豊富な授業時間に組み込まれている多彩な活動も駿一小の魅力だ。百人一首や囲碁、将棋、バイオリン、伝統行事を学ぶ授業や、学校農園「つくし村」での農作業もあり、さまざまな体験を通じ、自然や文化についても習得できる。

1校時が始まる前の25分で読書やミニ問題などに取

事も充実している。

豊富な授業時間に組み込まれている多彩な活動も駿一小の魅力だ。百人一首や囲碁、将棋、バイオリン、伝統行事を学ぶ授業や、学校農園「つくし村」での農作業もあり、さまざまな体験を通じ、自然や文化についても習得できる。